

# 伊豆半島東方沖の地震活動

2009年12月17日午後から始まった伊豆半島東方沖の地震活動は、夕方からは活発になり、震源が徐々に浅くなっていった。23時45分のM5.0の地震以降は上昇が止まり、20日以降は、急速に活動が低下した。この群発地震活動が始まった17日未明から、伊東市新井にあるポアホール型傾斜計やひずみ計でも変動が観測されていた。

この地域では1978年以降たびたび群発地震活動が発生していたが、その活動領域は同じ傾いた面上の少しずつずれた場所であった。1998年の活動以降、比較的規模の小さなやや深い部分での活動が続いていた。今回の活動も同じ傾いた面上で開始したが、深さ約6.5km付近から浅い領域では、鉛直の面上での活動になり、新たな領域に地震活動が広がった。

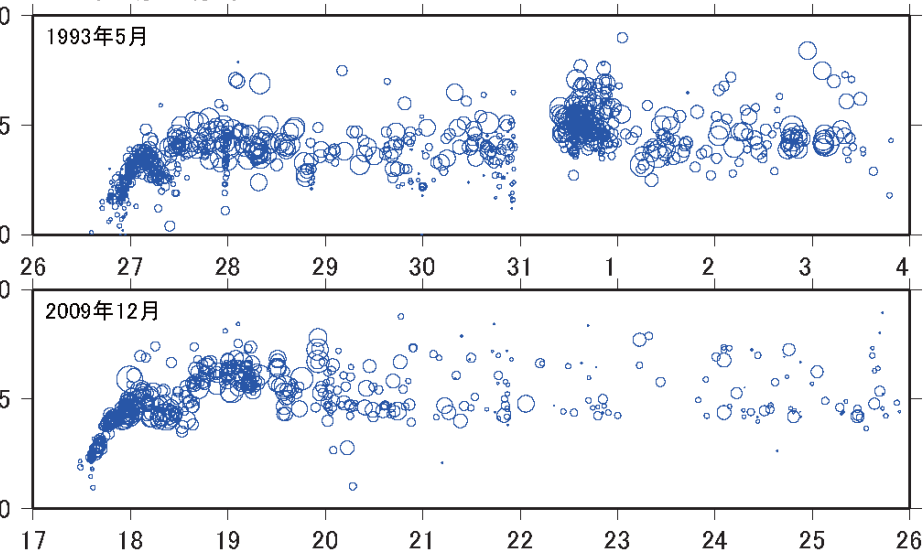


図1 1993年の活動と今回の活動との深さ変化

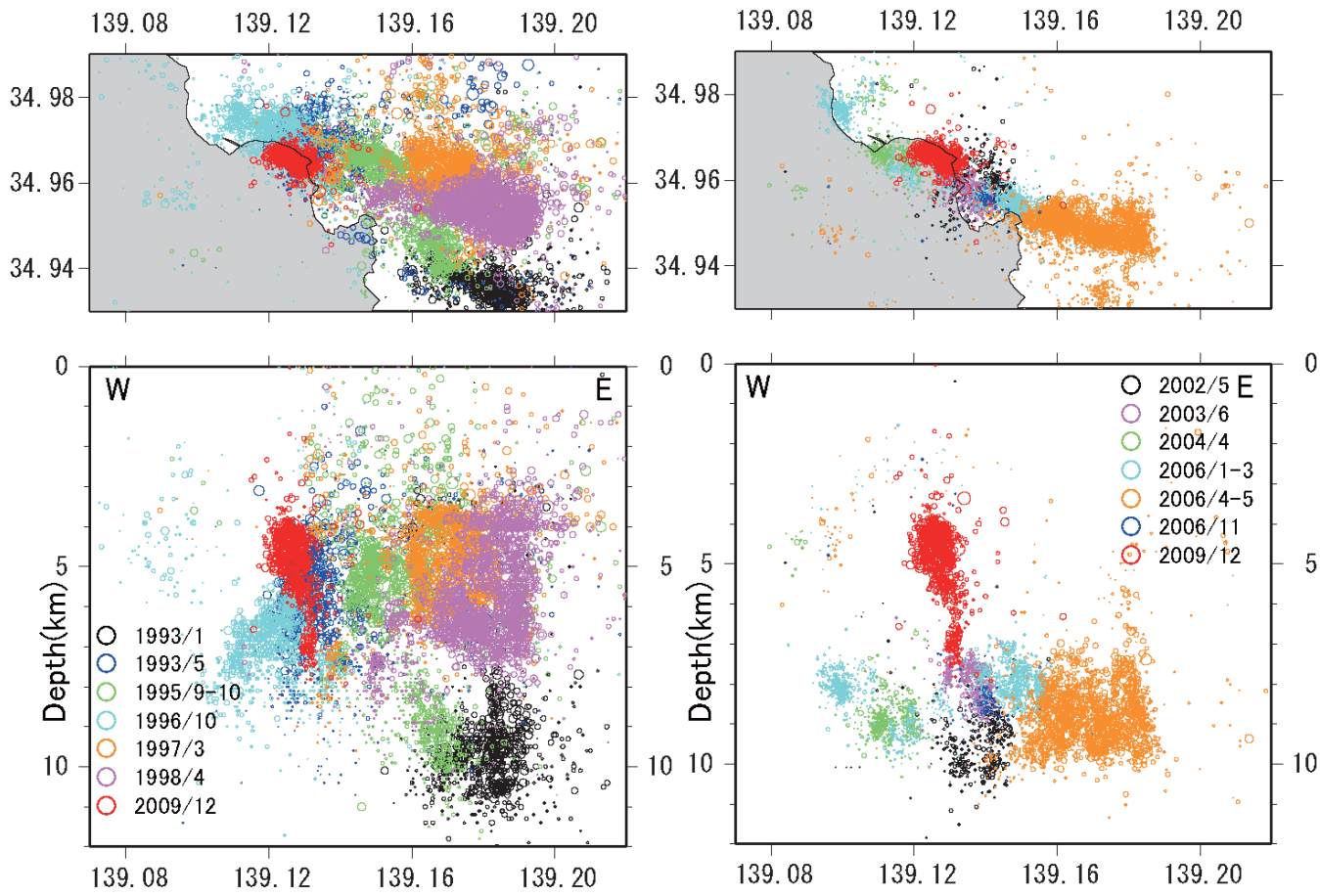


図2 1990年代の地震活動と今回の活動

図3 2000年代の地震活動と今回の活動